

TOEIC(L&R および S&W) 活用に当たってのトラブルとその対応について

一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会

1. 万が一、試験の実施等における重大なトラブルが発生した場合に、再試験の実施は可能か

(特に、各試験における年間の最終回で発生した場合)。再試験においては、検定料を再度徴収するのか。可能でない場合、受験生保護の観点から、どのような対応が考えられるか。

TOEIC(L&R、S&W 共)における「公開テスト」は、当協会が試験会場の設定から、試験当日の管理運営を行うとともに、その試験用に新たな書下ろしの試験問題を開発元である米国 ETS より提供を受けて実施されます。

以上の前提に立ちますと、公開テストの「再実施」はできません。一番の問題は、短時間で新たな問題を別途用意することができないということがあります。TOEIC の公開テストは 8 月の L&R を除き 4 月から 12 月まで毎月実施されておりますので、基本的には、翌月の公開テストを受験していただくことをお勧め致します。その際、当方の責に帰するトラブルの場合は、検定料を再徴収することはありません。

2. 各試験実施団体の次年度の試験日、試験会場の規模等はいつまでに決定しておく必要があるか。

基本的には、試験日や各回の試験実施都市については、前年の 10 月頃までに決定されに公式サイトで公開しております。

なお、試験会場の情報については TOEIC L&R テストでは全国公開しておりません。TOEIC S&W テストでは申込が開始されるタイミングで公開しております。

3. ニーズ調査の結果を踏まえた試験会場確保のため、試験実施団体と高等学校あるいは教育委員会でどのような調整方法が考えられるか。

TOEIC L&R テストでは、受験者規模が大きいため大学などを借用することが多く高校を主に借用する想定は今のところありません。ニーズ調査の結果で示された大学入試目的で受験される方々の分だけ受験者が増えたとしても、その他一般受験者用に当協会が用意する会場で吸収できると考えております。

TOEIC S&W では、受験人数や PC 施設の確保等で当協会が実施可能と判断した場合には無償貸出の会場を優先的に調整依頼を行う可能性はあります。各高校や

教育委員会には、受験ニーズのある高校の PC を含む施設借用窓口担当者をご紹介いただきたく存じます。

4. 仮に、受検申込後に試験会場の大幅な不足が判明し、かつ試験実施団体において会場の手配が困難である場合にどのような対応を講じるか。

TOEIC L&R テストでは、大幅な不足がある場合には大学や貸会議室などを増やして対応します。申込締切から試験当日まで時間がありますので、過去の実績からも会場の手配が困難となるような状況は今のとこと想定しておりません。

TOEIC S&W テストでは、PC 環境等で試験会場設置上の制約があるため、試験会場は席数があらかじめ限られており、また受験者が試験会場を選択できるシステムを採っているため先着順となり、不足が生じるケースは考えられます。但し会場が満席となった場合は、その時点でそれ以上の申込はできませんので、申込後に不足が判明するということはありません。不足が生じた場合でも、公開テストという形では対応できません。翌月以降で受験していただくこととなります。